

(阿久根市波留字田島)

**位置と環境**

高松川河口近くの海岸から約0.8km入り込んだ、低地との比高差が約5mある台地南側縁辺部に所在している。海拔約10mである。

**調査の経緯**

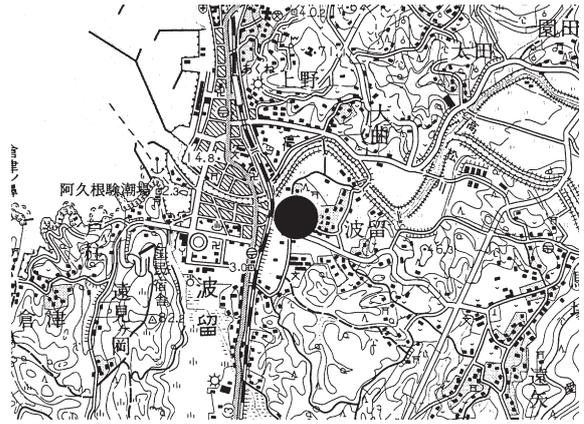
昭和49(1974)年に池水寛治によって確認された貝塚であるが、これまで発掘調査はされていない。紹介されている資料は、地主の採集資料である。

**遺構と遺物**

縄文時代前期の曾畑式土器や後期の出水式土器などが採集されている貝塚である。

曾畑式土器は口縁部がまっすぐ伸び、端がやや外反している。口唇部には密な刻みがみられる。外面には短沈線が横方向あるいは縦方向・斜め方向につけられる。また、鋸歯文・綾杉文・刺突文・雷文などもみられる。内面は貝殻条痕であるが、口縁部近くには刺突文・連点文・短沈線文などがみられる。底は丸底で、短沈線による組合せがみられる。胎土に多くの滑石を含むものもある。

後期の土器は出水式土器である。口縁部と頸部に刻目突帯が貼り付けられ、その間には斜位の短い沈線があるもの、頸部がくびれて短い口縁をもち、ここに太い凹線文と2段の連続刺突文がみられるもの、突起部の口唇部に粘土紐が貼り付けられ、縦・横あるいは斜位の凹線があるものなどがあり、底部は平底あるいは上げ底である。底部近くまでヘラ沈線のあるものもある。この他に玉縁状口縁をもつ壺状の土器や、磨消縄文土器も出土している。



第1図 波留貝塚の位置

石器は磨製石斧・打製石斧・磨石・敲石が採集されている。

**特徴**

・発掘調査が実施されていないため貝塚の時期を含めた詳細は不明であるが、出水地方にある荘貝塚(前期)、江内貝塚(中期)、出水貝塚(後期)等との関係が注目される。

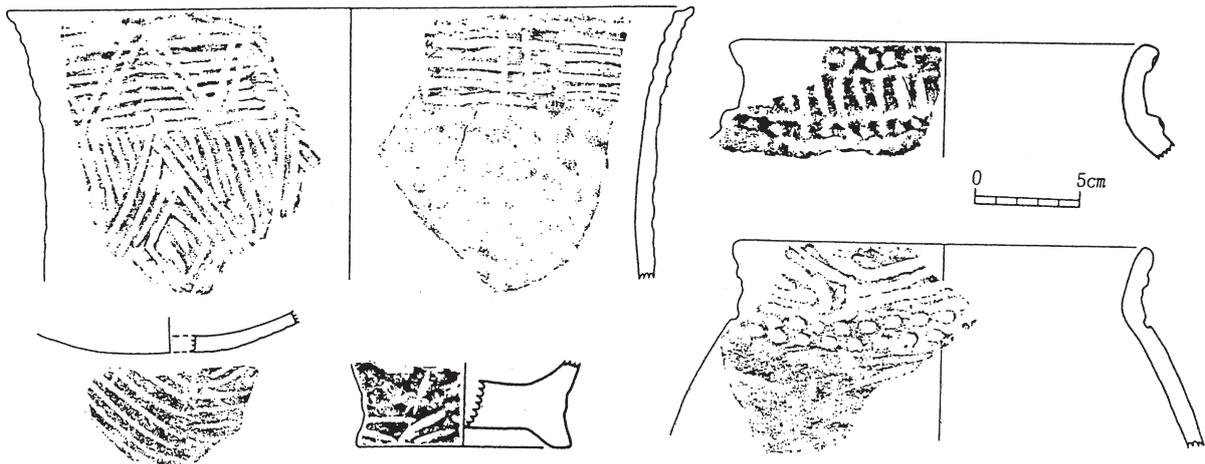
**資料の所在**

採集遺物は、阿久根市郷土資料館に展示・保管されている。

**参考文献**

- 池水寛治1974「先史時代の阿久根」『阿久根市誌』  
川畑昭光1982「波留貝塚の採集遺物」『北山遺跡』  
(『阿久根市埋蔵文化財発掘調査報告書』(1)阿久根市教育委員会  
前迫亮一1989「波留貝塚採集の遺物について」『南九州縄文通信』南九州縄文研究会2  
前迫亮一1990「阿久根市採集の縄文土器Ⅰ」『大河』創刊号 大河同人

(前迫亮一)



第2図 採集された土器